



平成 26 年 11 月 18 日
ストラスブール研究連絡センター

フランス国民教育・高等教育・研究省(MENESR)・フランス国立科学研究センター(CNRS)・フランス国立農業研究所(INRA)

●Jean Tirole (ジャン・ティロール)氏が 2014 年ノーベル経済学賞受賞

2014 年ノーベル経済学賞が、経済学者でトゥルーズ経済学院(T.S.E.) 理事長の Jean Tirole 氏に授与されることが決まった。市場規制の分析に関する業績が認められて今回の受賞に至ったもの。これを受けて、フランソワ・オランド大統領、ローラン・ファビウス外務・国際開発大臣、ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣、アラン・フックス CNRS 会長、フランソワ・ウリエ INRA 会長らが同氏の受賞を称えた。

・フランス高等教育研究省“Jean Tirole, Prix Nobel d'Economie 2014”(2014 年 10 月 13 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid82910/jean-tirole-prix-nobel-d-economie-2014.html>

・CNRS“Le CNRS félicite Jean Tirole, prix Nobel d'économie 2014”(2014 年 10 月 13 日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3769.htm>

・INRIA “Jean Tirole, le prix Nobel d'Economie 2014, rencontre le PDG de l'Inra”(2014 年 10 月 15 日)

<http://presse.inra.fr/Ressources/Communiqués-de-presse/Jean-Tirole-le-prix-Nobel-d-Economie-2014-rencontre-le-PDG-de-l-Inra>

・在日フランス大使館“ノーベル経済学賞、フランスのジャン・ティロール氏”

<http://www.ambafrance-jp.org/article8069>

フランス国民教育・高等教育・研究省(MENESR)

●2014 年科学の醍醐味“Le goût des sciences”賞

ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、フランス科学祭の「Speed Dating Métiers」行事において、「科学の醍醐味“Le goût des sciences”」賞の授賞式を行った。本賞は、2008 年から、毎年一般の人々に科学を広めることに貢献したイニシアチブや出版物を 3 部門で表彰している。審査は、科学者や大学職員、公的企業・民間企業の研究ディレクター、ジャーナリスト、作家、「青少年」専門家らの混成チームによって行われる。今年の実賞作品は以下の通り。

○「一般向けの本」賞:「生き物の年代記」(François Letourneux、Nathalie Fontrel)

○「青少年向けの科学の紹介」賞:「利口な地球人」(Delphine Grinberg)

○「科学コミュニケーション」賞:「超新星の泉」(Thierry Foglizzo)

・フランス高等教育研究省“Remise du prix Le Goût des sciences 2014”(2014年10月9日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid82806/remise-du-prix-le-gout-des-sciences-2014.html>

●将来のデータサイエンティスト育成に向けた科学・大学チェア職の創設

2014年10月15日、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、エコール・ポリテク、民間企業のKeyrus社、Orange社、Thales社によって創設され、X財団が支援する、「データサイエンティスト」職の署名式を後援した。

データ量が爆発的に増加するにつれ、ビッグデータが科学的・技術的・経済的・権力上の問題となり、また同時に教育上の問題になってきた。ビッグデータに関する専門家の需要が2015年には世界で4400万件に上るとされており、フランスでは、ビッグデータの市場規模は2020年には約90億ユーロとなり、6年間で13万件の雇用が創設されると見込まれている。

高等教育研究省は、これらのデータ処理に関する新たな職業に従事する若者の育成に取り組んでおり、このデータサイエンティスト職を創設し、拡大する関係セクターにおけるフランスの役割を強化してゆく方針である。

・フランス高等教育研究省“Signature d'une chaire scientifique et universitaire pour former les Data scientist de demain”(2014年10月15日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid83013/signature-d-une-chaire-scientifique-et-universitaire-pour-former-les-data-scientist-de-demain.html>

●第16回宇宙に関する欧州議会間会議(CIEE)

2014年10月20日、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、Chantal Berthelot宇宙に関する国会議員グループ(GPE)長、Jean-Yves le Gall CNES会長、Jean-Jacques Dordain ESA局長の出席の下、宇宙に関する欧州議会間会議(CIEE)を開会した。今回はGPEが議長を務め、CIEE総会は同20、21日、パリの国民議会において、「発展に役立つ宇宙」と「宇宙の発展」の2大テーマを中心に行われた。フィオラゾ大臣はスピーチの中で、宇宙計画によって、欧州で3万8289件、フランスで1万6500件の雇用が確保されること、デジタル化や衛星通信、地形・位置情報の開発が発展することなどに触れ、宇宙計画の発展とフランスの更なる貢献を期待した。

・フランス高等教育研究省“16e Conférence interparlementaire européenne sur l'espace”(2014年10月20日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid83131/16e-conference-interparlementaire-europeenne-sur-l-espace.html>

● 高等教育研究省と Schneider Electric 社との協定締結

2014年10月29日、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、Schneider Electric社のJean-Pascal Tricoire社長と協定書に署名した。これにより、教育・研究機関と企業間の共同プロジェクトや交流を強化し、就職や、社会・企業の需要に応えた教育などの具体的対策を立てる。また、Schneider Electric社が提供する研修や雇用など、持続可能な発展とエネルギーに関する職業について、若者への周知にも取り組む。さらに、博士号取得者・ポスドクの同社への就職推進も行う。

・フランス高等教育研究省“Signature d'un accord-cadre entre Schneider Electric et le secrétariat d'Etat à l'Enseignement supérieur et à la Recherche”(2014年10月29日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid83373/signature-d-un-accord-cadre-avec-schneider-electric.html>

● CréaMOOCs プロジェクト公募の結果

国民教育・高等教育・研究省が、フランスデジタル大学(FUN)を利用した無料オンライン講座を開始して1年が経過した。現在までに、大学・各種学校の提供するMOOCsは53件に上り、40万人以上の受講者を集めている。

2015年の優先的行動計画に、仏語圏でのMOOCs共同制作と配信、継続教育のためのMOOCs開発が挙げられる。それに伴い、2014年5月12日にCréaMOOCsのプロジェクト公募が開始され、今回、その結果が発表され、33件の応募プロジェクトの中から21件(計230万ユーロ)が採択された。

・フランス高等教育研究省“Résultats de l'appel à projets CréaMOOCs”(2014年11月5日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid83532/resultats-de-l-appel-a-projets-creamooocs.html>

● 国民議会への2015年高等教育研究予算提出

2014年11月4日、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、2015年高等教育研究予算を国民議会に提出した。本予算は、大統領と首相により、予算額の安定が保証されている。MIREC(研究高等教育合同委員会)予算については260億6000万ユーロ、高等教育研究周辺予算については230億5000万ユーロが確保される。

高等教育研究への予算額は2014年とほぼ同額の128億ユーロで、内訳には、2017年まで毎年1000件の大学での追加雇用予算に6000万ユーロ、カテゴリーB、Cに属する職員のための対策に2000万ユーロ、奨学生の保証に1300万ユーロなどが含まれる。

学生生活への予算は、2014年比で4500万ユーロの増加となる。これにより、奨学金改革を実施

する。

研究への予算は、前年比で 600 万ユーロの増加となる 77 億 7000 万ユーロで、これにより、研究機関の維持(57 億 8000 万ユーロ)や ANR の維持(5 億 8000 万ユーロ)が賄われる。

・フランス高等教育研究省“Présentation du budget 2015 de l'enseignement supérieur et de la recherche à l'Assemblée Nationale”(2014 年 11 月 5 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid83534/presentation-du-budget-2015-de-l-enseignement-superieur-et-de-la-recherche.html>

フランス国立科学研究センター(CNRS)

●フランスのサンゴバン社、CNRS 及び日本の物質・材料研究機構(NIMS)が国際共同ユニット(UMI)を創設

サンゴバン社、CNRS 及び NIMS は、ティエリー・ダナ駐日フランス大使出席の下、国際共同ユニット(UMI)となる LINK 研究室(Laboratory for Innovative Key Materials and Structures)をつくばの NIMS に開設した。この UMI は、セラミックス、粉粒材料、クリスタル、ガラス、研磨剤など、サンゴバン社の事業部門へ応用可能な新材料の開発に取り組む。

・CNRS “Saint-Gobain et le CNRS créent une unité de recherche commune au sein du NIMS au Japon”(2014 年 10 月 28 日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3793.htm>

●新たな仏-米国際共同ユニット(UMI)、生物学と社会科学をつなぐ

2014 年 10 月 31 日、Alain Fuchs CNRS 会長と Gene Block カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)学長は、UCLA で、国際共同ユニット(UMI)となる Epigenetics, Data & Politics (Epidapo)を開設した。この UMI は UCLA の社会遺伝学研究所に設置され、後生的遺伝学とその社会的・政治的關係に焦点を当てる。

・CNRS “Un nouveau laboratoire franco-américain fait dialoguer biologie et sciences sociales”(2014 年 10 月 31 日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/3795.htm>

フランス国立農業研究所(INRA)

●中国農業科学院との農学研究協力協定を更新

2014 年 10 月 10 日、中国農業科学院(CAAS)と INRA は北京で協力協定を締結し、1986 年か

ら続いている協力関係を更新した。これにより、INRA の学際的大規模プログラムの共同研究プロジェクトの発展や、農業・食の安全・気候変動に関する国際・欧州プロジェクトへの共同参加を推進する。

・INRA “Un nouvel accord de coopération avec la Chine pour la recherche agronomique”(2014年10月10日)

<http://institut.inra.fr/Strategies/Europe-et-international/Toutes-les-actualites/Nouvel-accord-de-cooperation-avec-la-Chine-pour-la-recherche-agronomique>

●フランソワ・ウリエ INRA 会長、フランソワ・オランド大統領のカナダ訪問に同行

2014年11月2-4日、ウリエ会長は、オランド大統領とナジャット・ヴァロー＝ベルカセム国民教育・高等教育・研究大臣のカナダ訪問に同行した。研究・イノベーションを目的とした訪問中、代表団は複数の討論会や協力協定調印式、公式訪問を行った。訪問中に締結した協定には、AxLRテクノロジー移転加速会社(ラングドック-ルシヨン)とカナダ研究・商業化 COE である Tecterra とのエコ・イノベーション関連の協定、Campus France、CNRS、CNES(国立宇宙研究センター)、西ブルターニュ大学、リヨン第1大学とそれらのカナダの対応機関との複数の協定、LIA(国際協ラボ) INRA とボルドー・ポリテクニク研究所及びボルドー大学、ラバル大学との協定などが含まれる。

・INRA “François Houllier accompagne François Hollande au Canada”(2014年11月3日)

<http://institut.inra.fr/Strategies/Europe-et-international/Toutes-les-actualites/Francois-Houllier-accompagne-Francois-Hollande-au-Canada>

●2014年 INRA 賞受賞者の発表

第9回 INRA 賞授与式典において、5名の INRA 賞受賞者が発表され、2014年11月5日、ステファヌ・ルフォル農業・農産加工業・林業大臣とジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣の立会いの下、授賞式が行われた。受賞者は以下のとおり。

・優秀賞: François Tardieu 氏、ストレス条件下における植物の生態生理学研究室研究ディレクター(INRA モンペリエ)

・若手研究者賞: Lisa Wingate 氏、土壌-植物-大気相互作用ユニット研究員(INRA ボルドー-アキテーヌ)

・エンジニア賞: Laurent Labbé 氏、シジュン モン・ダレ(PEIMA)実験養魚家実験ユニットディレクター(INRA レンヌ)

・研究支援賞: Séverine Siblot 氏、テクニシャン(INRA ディジョン)

Jean-Marie Trommschlagher 氏、テクニシャン(INRA ナンシー)

・INRA “Le palmarès 2014 des lauriers de l’Inra”(2014年11月5日)

<http://presse.inra.fr/Ressources/Communiqués-de-presse/Le-palmares-2014-des-lauriers-de-l-Inra>

フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)

●Maureen Clerc 氏、科学アカデミーの Pierre Faure 賞を受賞

INRIA の Athna プロジェクトチームの研究者 Maureen Clerc が、フランス科学アカデミーの Pierre Faure 賞を受賞した。氏の脳の電気シグナルの理解とモデリングに関する研究業績が本受賞につながった。

Pierre Faure 賞は、数学、オートメーション工学や科学計算などの情報科学を生命科学へ応用する分野で卓越した業績を持つ 45 歳未満の欧州連合の研究者に授与される。

・INRIA “Maureen Clerc reçoit le Prix Pierre Faure de l'Académie des Sciences”(2014 年 10 月 17 日)

<http://www.inria.fr/centre/sophia/actualites/maureen-clerc-recoit-le-prix-pierre-faure-de-l-academie-des-sciences>

●INRIA、画像処理の世界会合に参加

2014 年 10 月 27-30 日、パリのラ・デファンスの CNIT で、画像処理の国際会合である ICIP2014 が開催された。フランスで本会合が開かれるのは今回が初めてで、INRIA は主催者の一員として参加した。画像処理研究をしている INRIA の多数の研究チームの内、12 チームが ICIP2014 の「選ばれた業績」に関わっている。また、INRIA のスタンドでは、複数のチームが研究内容の紹介をした。

・INRIA “Inria participe au rendez-vous mondial du traitement d'images”(2014 年 10 月 27 日)

<http://www.inria.fr/actualite/actualites-inria/inria-participe-a-icip-2014>

フランス各紙

●商業系グランゼコールの授業料見直し

Edhec 経営大学院が授業料の値下げを検討している。これは、授業料の値上げが進む昨今では珍しいことである。Edhec 経営大学院では、現在、学生は 4 年間のコースで 4 万 1000 ユーロの授業料を支払っている。しかし、経済危機の影響を受け、この授業料の負担が困難な家庭が増加している。しかし、銀行の貸付に頼る学生は少なく(学生の借り手 4.7%、商業系グランゼコールで 11.5%)、その背景には、銀行側の審査が厳しいことも挙げられる。

一方で、他国と比べるとフランスのビジネススクールの授業料は安いとの意見もある。例えば、ロンドンビジネススクールは経営修士課程で 3 万 4200 ユーロの授業料を課している。この場合、修士課程が 12 か月なので、フランスと比較すると 1 年間で 2 倍の授業料を支払っていることになるが、学生の生活費を考慮すると、学生やその家族への負担は少ないと考えられる。

フランスの経済状況、教育の質、学生の需要などを考慮した議論が続きそうだ。

・Le Monde “La crise économique pousse les écoles de commerce à repenser leurs tarifs”(2014年10月3日)

●グランゼコール会議で在り方を問う

2014年10月2-3日、ストラスブールでグランゼコール会議(CGGE)が開催され、160の技術系・商業系グランゼコールの代表者が集い、グランゼコールの将来について議論した。今回、開催地としてストラスブールが選ばれた背景には、ストラスブールが、ストラスブール大学をリーダーに、大学-グランゼコール連合を実現させていることがある。アルザス地域では、工業系グランゼコールの卒業生が年々増加しており、2014年には1000人を超えるとされている。しかし、グランゼコールは授業料が年間1万ユーロと、大学と比較して高いことなどから、増加傾向は近年中に横ばいに移行すると考えられており、グランゼコールの将来は、大学・研究ユニット・企業との連携強化に掛かっている。

ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育・研究担当大臣は、同3日、本会合に出席し、フランスは欧州研究予算への貢献(支出)に対し、十分なプロジェクト提案ができていないために研究費獲得額が少なく、6億ユーロの赤字であることを引き合いに、CGGE会合に参加した技術系・商業系グランゼコールに対して発破をかけた。また、グランゼコールがフランスの高等教育の多様性を示すものとして期待していることを述べた。

・DNA “La carte de la diversité”(2014年10月2日)

・DNA “La ministre et le réalisme alsacien”(2014年10月4日)